

2016年10月2日(日)朝10:10～

聖霊降臨節第21、オリーブ会等

10月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**勝利の教会一大群衆の大讚美**

聖書:ヨハネの黙示録 7章9～17節

＜口語訳＞

新約聖書393～394頁

ヨハネの黙示録 7章9～17節

＜新共同訳＞

新約聖書460～461頁

ヨハネの黙示録 7章9～17節

＜新改訳第3版＞

新約聖書484～485頁

ヨハネの黙示7章9～17節＜塚本訳＞

新約聖書793～794頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～3章22節は、エペソ教会ほか7つのアジアの教会への手紙で、4章1～11節は、「天の玉座・御座」の前での4つの生き物と24人の長老の讚美、5章1～14節は、「天の玉座・御座の父なる神の右手にある封印の巻物」を開封でき、その「巻物」を受取る屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美描写、6章1～8節は、「さばきの巻物」第1～4巻封印、9～11節は、第5巻の封印、12～17節は、第6巻の封印の開封、7章1～8節は、144,000人の戦いを示す挿入箇所です。

- ◇ヨハネの黙示録7章9～17節は、神の御座の前での大群衆の大讚美を示す挿入箇所。
- ⇒ヨハネの黙示録は、天の神の御座の前に導かれたヨハネが、神から見せていただいた出来事の記録で、空想ではありません。
- ⇒ヨハネの黙示録6章は、第1～6巻が開封され、「神のさばき」を示しましたが、7章は、1～8節で、地上の「戦闘教会」が描かれ、9～17節では、「天上の勝利の教会」が描かれています。
- ⇒それは、大群衆の礼拝、大讚美、そして、神が、ひとりひとりの目の涙を拭って下さるという神の恵みが溢れた神の恵みの御座です。
- ⇒そこには、地上と違って、「彼らは最早飢えず、最早渴かず、太陽も如何な暑さも(最早)彼らを襲わないであろう」(16)と、長老のひとりが、ヨハネに説き明かすように、あらゆるわざわいから解放された生活が用意されています。
- ⇒ヨハネの黙示録7章は、8章から第7巻が開封され、神のさばきが開示される前の神の恵みと慰めを垣間見る挿入箇所です。
- ⇒大事な使信は、忠実な神礼拝・神讚美です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第7章9～17節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録7章9～10節；ヨハネは、大群衆が、神の御座と神の小羊との間で神礼拝と讚美をささげている姿を見せられました。

◇9～17節；塚本訳◆贖われし大群衆－勝利の教会

「9 この後で(また)私は見た。すると視よ、誰も数えることの出来ない(ほど)多くの群衆が(あった。彼らは)凡ての国と種族と民と国語との中から集ま(った者であ)り、白い上衣を纏い、手に棕櫚(の枝)を持って、玉座の前、仔羊の前に立っていた。

10 そして(讚美して)大声に叫んで言う、救いは玉座に坐し給う我らの神と仔羊とに！」と、ヨハネは神の御座の前の光景を啓示されました。

◇9～10節；「誰も数えることの出来ない(ほど)多くの群衆」で、「凡ての国と種族と民と国語との中から集ま(った者)」が、「白い上衣を纏い、手に棕櫚(の枝)を持って、玉座の前、仔羊

の前に立っていた」、そして、「救いは玉座に坐し給う我らの神と仔羊とに！」と、「(讚美して)大声に叫んで言うて」いたのです。

⇒「誰も数えることの出来ない(ほど)多くの群衆」すなわち、「凡ての国と種族と民と国語との中から集ま(った者)」は、ヨハネを驚かせました。

⇒「戦争、内戦、飢饉、死、地震、天変地異」の中で生き抜く「神の印を押された144,000人の人々の姿」、「地の四隅に立つ四人の御使い」、「地上にある私たちが害さないように叫ぶもう一人(他)の御使い」にも、驚きましたが、100歳を越えようとするヨハネのユダヤ人的発想に砕いた「異邦人伝道者パウロ」の思いを思い起こさせる光景だったからです。

⇒「凡ての国と種族と民と国語との中から集ま(った者)」である「誰も数えることの出来ない(ほど)多くの群衆」には、「白い上衣」と「棕櫚(の枝)」という勝利のしるしが、与えられていたのです。

⇒しかも、彼らは、勝利者として、神の仔羊(羔羊)の前で、神の御座の前に立っていたのです。

◆ 黙示録7章11～17節 ;ヨハネは、大群衆と共に、4つの生き物と24人の長老も、神礼拝と讚美をささげ、なぜ白い衣を大群衆が着ているのかの意味を説き明かされます。

◇ 9～17節 ;塚本訳 ◆ 贖われし大群衆 — 勝利の教会

「11 すると凡ての御使い達が玉座と長老達と四つの活物との周圍に立って、玉座の前に平伏し、神を拝して

12 言うた——アーメン、願わくは讚美と栄光と知恵と感謝と榮譽と権能とが、永遠より永遠に我らの神にあらんことを、アーメン！

13 すると長老の一人が答えて私に言うた、『白い上衣を纏うたこの人達は(一体)誰であるか。また何処から来たか(、お前はそれを知っているか。』

14 『わが主よ、貴方が御存知です』と私は彼に言うた。そこで彼が私に言うた、『この人達は(既に最後の日の)大なる患難を経て来た者である。彼らは仔羊の(流し給うた聖い)血でその上衣を洗ってそれを白くした。

15 この故に(今)彼らは神の玉座の前に

あつて、昼も夜もその聖所で彼に仕えているのである。そして玉座に坐し給う者は、彼らの上に天幕を張(つて彼らを護)り給うであらう。

16 彼らは最早飢えず、最早渴かず、太陽も如何な暑さも(最早)彼らを襲わないであらう。

17 玉座の真中にい給う仔羊が彼らを牧し、彼らを生命の水の泉に導き、また神は彼らの目から悉く涙を拭い去り給うからである。』と、ヨハネは神の御座の前の光景を啓示されました。

◇ 11～12節 ; 「凡ての御使い達」、「長老達」、「四つの活物」が、「玉座」と「周圍に立って、玉座の前に平伏し、神を拝して」、「願わくは讚美と栄光と知恵と感謝と栄誉と権能とが、永遠より永遠に我らの神にあらんことを」と、「誰も数えることの出来ない(ほど)多くの群衆の大讚美」に唱和しています。

⇒先に神の御座に帰った「4つの生き物」と「24人の長老」たちも、後に帰る「大群衆」も、神礼拝、讚美は、すぐ心を1つにさせます。

◇13～17節；「長老の一人」が、ヨハネに「白い上衣を纏うたこの人達は(一体)誰であるか。また何処から来たか(、お前はそれを知っているか)」と問い、ヨハネが、「わが主よ、貴方が御存知です」と答えると、「この人達は(既に最後の日の)大なる患難を経て来た者である。彼らは仔羊の(流し給うた聖い)血でその上衣を洗ってそれを白くした」と解説し、「彼らは神の玉座の前において、昼も夜もその聖所で彼に仕えているのである。そして玉座に坐し給う者は、彼らの上に天幕を張(って彼らを護)り給う」、「彼らは最早飢えず、最早渴かず、太陽も如何な暑さも(最早)彼らを襲わない」、「玉座の真中にい給う仔羊が彼らを牧し、彼らを生命の水の泉に導き、また神は彼らの目から悉く涙を拭い去り給う」と長老の一人は、語っています。

⇒「長老の一人」は、ヨハネが応答できないのを承知の上で、問いかけ、**神の恵みと慰め**を語っています。

⇒ヨハネを感動させたのは、異邦人中心の「**大群衆**」が、「**神の聖所**」(15)にいたことです。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様のキリスト者の再臨信仰への励ましのことばと黙示の神の御子の愛の思いが啓示され、2章1～3章22節は、7つのアジアの教会への手紙で、4章1～11節は、「天の玉座・御座」の前での4つの生き物と24人の長老の讃美、5章1～14節は、「天の玉座・御座の父なる神の右手にある封印の巻物」を開封でき、その「巻物」を受取る屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讃美描写、6章1～8節は、「さばきの巻物」第1～4巻封印、9～11節は、第5巻の封印、12～17節は、第6巻の封印の開封、7章1～8節は、144,000人の戦いを示す挿入箇所です。

◇ヨハネの黙示録7章9～17節は、神の御座の前での大群衆の大讚美を示す挿入箇所。

⇒第1巻は、白馬で、「戦争」、第2巻は、赤馬で「内乱・内戦」、第3巻は、黒馬で「飢饉」、第4巻は、青ざめた馬で「死」によるさばき宣告でした。

⇒これらの神の終末のさばきは、すでに地上で起こっていることではありますが、ヨハネの黙示録は、「戦争、内戦、飢饉、死」は、神のさばきであるとの認識を喚起しているのです。

⇒第5巻の封印開封は、「祭壇の下の殉教者」を、ヨハネに見せて下さる出来事であり、彼らの叫びは、「神の復讐」を求めるものでした。

⇒ヨハネも、私たち、地上の教会に属する者たち、聖書を神のことばと信じる者たちは、「復讐」は、神のなさることと信じています。

⇒第6巻の封印開封は、地震、黒い太陽、血の月、天の星落下という天変地異でした。

⇒「地(上)の王、貴人、将軍、富豪、権力者、また凡ての奴隷、自由人は(みな恐れて)」、「洞穴や山の岩の間に身を隠し」、「自己保身」に向かったのです。

- ⇒「**第7巻の封印開封**」(ヨハネの黙示録8章)前に、ヨハネの黙示録7:1～8で、「**神の印を押された(総計)十四万四千人・一万二千人の12部族・霊的イスラエル**」の姿を見ました。
- ⇒「**第7巻の封印開封**」の後におとずれる「**神が与えて下さる新天新地**」へと繋がる「**神の国**」の姿であり、天でも、地上でも、「**戦闘の教会**」として、「**神が全世界に働きかける**」神の民として生かされているのです。
- ⇒**神の仔羊(羔羊)**は、「(総計)十四万四千人・一万二千人の12部族・教会」に、EY師が提示された「**神の真実**」、「**神からの霊の賜物**」、「**今あるは神の恵み**」という神の能力が与えられて、「**神の国**」をあかしする原動力となっています。
- ⇒**神**は、「**地の四方の害を与える風を引き留めている四人の御使い**」と「**地をも海をも樹々をも害う四人の御使いに**」、「**神の(玉璽(しるし)でその)僕達の額に印をつけ(終わ)るまでは害を与えると大声で叫ぶもう一人の御使い**」に守られ、「**霊的イスラエル・戦闘の教会**」として、**神礼拝**に与っていることを喜びました。

⇒ヨハネの黙示録7:9～17では、「**神の御座の前に導かれた誰も数えることの出来ない(ほど)多くの群衆**」が、「**白い上衣を纏い**」、「**神の聖所で彼・神の仔羊(羔羊)に仕えている**」姿を描いていました。

⇒「**地上の戦闘教会**」が、勝利の凱旋をするしるしの「**白い上衣**」を纏い、「**棕櫚(の枝)**」をもって、異邦人が入ることを赦されなかった「**神の聖所で彼・神の仔羊(羔羊)に仕えている**」のです。

⇒地上の教会が、**神礼拝、讚美**に徹することが、ここでもさし示されています。